

ノード用トランシーバと インターフェース

ノード用トランシーバ・ガイド

ノードのトランシーバには、廉価な V/UHF の FM モービル機が使われていることが多いようですが、車載仕様の比較的頑丈なモービル機でもノードに使うと、稼働時間が長く、送信する時間もかなり長いため、過酷な動作を強いられます。

そのような状況に日々耐えているトランシーバについて、JQ1YDA 東京 WiRES ハムクラブの Web (<http://jq1yda.org>)にある「WiRES ノード局に使っている無線機の投票」結果を参考に、ノード運用者に人気のあるトランシーバをピックアップしました。それらは、EchoLink などほかの VoIP 無線システムでの汎用性が高いので、十分参考になるでしょう。

● ノード用トランシーバに関する用語

● **データ (DATA) 端子**…パケット通信の TNC (Terminal Node Controller) を接続することを想定したトランシーバの外部入出力端子です。パケット端子とも呼ばれ、マイクやスピーカ端子のように、すべてのトランシーバにある端子ではありません。この端子には、VoIP 無線用インターフェースも接続できる場合が多く、WiRES システムでは、このデータ端子の利用を前提としています(写真 6-1～写真 6-3)。通常は 6 ピンのミニ DIN ジャック (以下、MD6) が採用され、MD6 の場合、その各ピンの信号は全メーカー共通 (信号レベルはトランシーバによって多少の違いがある) です。



写真 6-1 多くの無線機で採用されているミニ DIN 6 ピン仕様 (本章では MD6 と表記) のデータ端子 (IC-2720)



写真 6-2 アルインコのトランシーバで採用されている D-Sub 9 ピン仕様 (本章では DB9 と表記) のデータ端子 (DR-420)